

アブからウマを守るう…

静内診療所 吉岡 一郎

もうしばらくするとまたアブの出現時期になります。アブはトリパノソーマや野兎病などの媒介動物となるだけではなく、親の放牧地での移動距離が増加し、親ウマに子ウマが蹴られるなど副要因的な疾病も増加します。皆さんへのマイナス影響はむしろ後者の方が実感があるかもしれません。アブの雌雄鑑別は眼の離れ具合で分かります。オスは合眼といって眼がくっついて、メスは複眼といって分かれています。メスアブは卵巣発育のため、

- ①吸血しないと産卵できないアブ
- ②吸血してもしなくても産卵できるアブ
- ③無吸血性のアブ

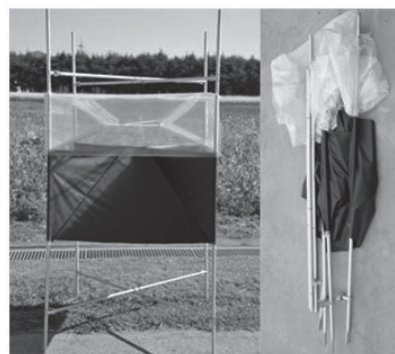
に大きく分かれます。ウマで主に被害になりうるのは、アカウシアブやニッポンシロフアブなどの吸血するメスアブによるものです。

アブの生活環は幼虫の期間が数か月～数年と長く、成虫の期間は3週間程しかありません。その中で成虫のメスは1～3回の産卵を行い次の世代へと伝えていきます。草の裏側、苔や木の葉などに産卵される卵塊や広大な地域に存在する土の中の幼虫を駆除することよりもウマなどの動物へ飛来してくる成虫を駆除の方が効率的だと考えます。

その成虫をどうしたら排除できるか考えてみます。アブの特徴として熱や黒、青、赤色に誘引されます。以前は科学的誘引剤として二酸化炭素も有用と考えられてきましたが、現在は環境的面からもあまり使われなくなっています。最近では熱や色に誘引される習性を利用したトラップが使われ、市販されています。(写真:右上)



また、農研機構で手作りのできるものも紹介されています。(写真:下)



新型トラップ
左:設置状態 右:折り畳んだ状態

他にも市販の殺虫剤もありますが、市販されているハーブ系忌避剤やハッカ油が忌避剤として有効なようです。ハッカには他にも清涼感や殺菌効果、消臭効果、炎症鎮静効果もみられます。ハッカ油にエタノールやサラダ油などを混ぜるようですが、その割合は今後の課題です。

いずれにしても、アブは幼虫期間が長いいため短期間の試みでは成果が実感できないかもしれませんが、アブの排除を考えていくことでウマの生活を良い道に進めてくれるのではないのでしょうか。

参考: Far夢アブキャップ

<http://farmage.co.jp/products/abukyap/>
農研機構 アブ防除用新型トラップ

https://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2015/15_024.html